

愛隣館研修センターニュース

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町 151 Tel:075-621-3849 Fax:075-621-1579

E-mail:airinday@sunny.ocn.ne.jp http://www.airinkan.net 振替:01020-5-39321

編集発行所:社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター 発行責任者:平田 義

116号

「平和をつくるために」

ひらた ただし
平田 義

今、世界各地で武力衝突が起き、貧困、抑圧、差別により人権が蹂躪され、「平和な世界」とは程遠い現実があります。

今号では、「平和をつくるために」今、私たちにできることについて改めて考えていきたいと思えます。沖縄平和研修参加者のレポート、平和をテーマにした絵本とDVDの紹介、向島中央公園での平和をつくりだす「アオギリ」集会の報告、沖縄の現状を知る平和映画上映会と講演会の報告を掲載しています。是非ともご一読くださり、共に「平和」をつくりだしていきましょう。

6月22日～26日平和研修を終えて

しょうがい児・者ホームヘルプ事業「ゆうりん」加藤 潤

沖縄が太平洋戦争にて受けた凄絶な(例え様もなく凄まじいこと、悲惨な事)傷跡、そして終わらない戦争の今を巡る旅でした。

普天間基地の危険除去の為、基地を辺野古へ。耳障りのいい言葉を耳にしますが、危険極まりない普天間基地と軟弱地盤で工事の進めようのない辺野古の海に土砂を投入し続け、辺野古の自然、綺麗な海をめちゃめちゃにしていく様は、僕の目には狂気としか思えなかった。普天間基地の敷地ギリギリに建てられた佐喜真美術館には戦時中の正に狂気の塊と化した作品が、これでもかと展示されていた。この天井にある窓に慰霊の日である6月23日の夕陽が差し込み、館内を照らすと聞いた時、鳥肌が立った。

■辺野古

アメリカの基地建設の為に日本がお金を出し、警備をし、選挙で民意がNOと答えが出たにも関わらず、1,000人も機動隊で反対する人達を排除する。

一体何の話なんだ？

海上で抗議活動している、不屈の船長金井さんが最後の食事で「負け続けるんです」とその言葉をよぎる。

産卵場所を基地の工事に奪われた辺野古の海亀に政府が

あら新たに違う浜を産卵場所に指定したと不屈の船上で聞いた時は「誰がどうやって海亀に伝えんねん？」人間の馬鹿さ加減に、涙が溢れてきた。



▲ 辺野古 大浦湾の海上で金井創さんのお話し

■伊江島

この小さな島には未だ戦争が居座っていた。戦後10年経ってボロボロになった島を建て直している住民を、嘲笑う様に武装したアメリカ軍がやってきて家を焼き払い、土地を奪い、人権をズタズタに切り裂いた。しかし住民の方々は人間として抵抗し、人間として向き

合った。

小さな反戦平和資料館には、戦争そのものが、所狭しと無造作に展示されていた。しかしどれもこれも強烈に訴えかけてきた。恐怖すら感じた。

資料館の館長謝花悦子さんからは、強烈な怒りと優しさを感じた。伊江島の話をしている様は忘れられない。同じ日の夕方、木村浩子さんと少しだけ会うことが出来た。このお二人からは、絶対に次の世代に戦争は起こさせない！しかし「あんたらの未来やで」ってメッセージを勝手に受け取りました。



▲伊江島 わびあいの里にて謝花悦子さんと

■対馬丸記念館

アメリカ軍が迫り疎開する子ども達を大勢乗せた、対馬丸が撃沈される。この事実を無かったこととし、箝口令を強いる。

うんざりし暗い気持ちで出ようとすると、修学旅行生かな？何人もの子ども達も髪型をみて、代わる代わる「カッコイイですね」って声かけてくれ「サンキューサンキュー！」と明るく出ていけた。サンキュー！

■不屈館

今回の旅は不屈という言葉と何度も向き合う旅だった。初日の食事会で、この何年かの辺野古の工事の進み具合に、肩を落として話す姿に始まり、色々な場面で、場所を感じた。その欠片位は持って帰ってこれたかな？

帰ってきて悲しみに満ちていた。少しずつ日常へ。それは、忘れるって事じゃなく、この感じた事全て抱きしめて、前に進んで行くかと思っています。

出会った皆さん！この研修を企画し呼んでくれた方々！ありがとうございました！！
最後に自身の言葉で

NEVER GIVE UP !!!

MOTHER FUCKER WAR !!!!!!!

今だから伝えたい

平和に関する絵本・DVD

「3匹のかわいいオオカミ」

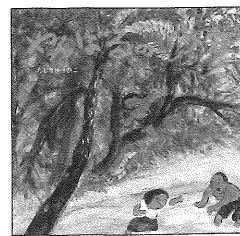
ユージー・トリピザス（文）、
ヘレン・オクセンバリー（絵）、
こだまともこ（訳）



「3匹きのこぶた」はみなさん一度は読んだことはあるのではないのでしょうか？
ぶたの3兄弟が建てたワラの家や木の家、レンガの家にやってくるおおかみから逃げたり戦ったりするお話です。ところがこの絵本はぶたとおおかみが逆の立場にたたされています。おおかみとぶたが逆の立場！？とどんなお話なのか気になりますよね。おおかみの3兄弟が同じように家を建ててはぶたが破壊しようとしています。3匹きのおおかみはその極悪なぶたから身を守ろうと、だんだんと強度のある家にしていくのですが、それを上回る攻撃を食らうのです。最後の展開は特に注目です。誰も予想ができないのではないかと思います。人が優しくなれたとき、人の心が動いたとき平和が生まれるのです。今の社会でも国を守るには核が必要だという話があります。本当にそうなのではないでしょうか。このお話を通してぜひ今だからこそ読んで、「平和」について考えてもらいたいです。（堀田 明穂）

「やんばるの少年」

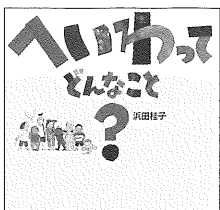
たじまゆきひこ・作
どうしんしゃ
重心社



沖縄のやんばるの森、めずらしい鳥や虫などたくさん生きものがすむ森をあそびばにしている「ぼく」とげんたとハルコ。3人は川でうなぎをとったり、バンシルーの木にのぼって実を食べたりする仲よし。ある日、森の木が切りたおされて…
オスプレイのヘリパッド建設が始まって、森の木すれすれにオスプレイが滑空するようになり、ハルコの家族は、引っ越すことになって…
作者のたじまゆきひこさんの『『ぼく』やげんた、ハルコの姿をとって、自然とともにある時間のゆたかさを感じてほしい、ちょっとやさしい気持ちになってほしい。沖縄のことを知るきっかけになってほしい。そう願ってこの絵本を作りました。ということばが絵本を読み終わった後も心に響きます。
(辻 早苗)

『へいわってどんなこと?』

浜田 桂子 (著)



へいわってよく聞く言葉だけど、どういう意味なんだろう?へいわって大事ってよく言うけど、なにがあればへいわだねって言えるんだろう?

この絵本で書かれるのは、そんな知っているようでうまく言葉にできない「へいわ」についての話。

「せんそうをしない」「ばくだんをおとさない」といったすごく大きなことから「わるいことをしたら、ごめんなさいといえること」「どんな神様を信じて、しんじてなくても、」という一見して小さなことまで描かれている。

ニュースで「〇〇で戦争が起っています」と聞くことが多くなった今の時代。「かわいそうだと思うけど、遠いところでやっている、自分とはあまり関係ないこと」と思ってしまうがちではないでしょうか?

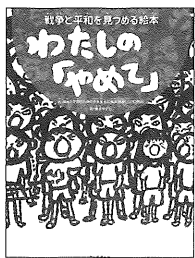
しかし、この絵本を読んだあと、きっとあなたは「当たり前」のことを当たり前前に大切に出来ることこそ、へいわへの第一歩。特別なことではなく、それは自分でも、自分の周りの人たちでもできること」と思っていただけと思えます。

かつて争いの歴史を歩み、今も国同士でなにかと言い合っている日中韓の作家さんたちが手を取り合って協力して作った絵本という事も、私たちにへいわのメッセージをプレゼントしてくれていると感じる、大切に読みたい一冊。

(ライスチョウ・ノア・ピンアン)

わたしの「やめて」

自由と平和のための京大有志の会 (著)



「くにとくにのけんかをせんそうといえます。」という文から始まります。どうして戦争が始まるのか?戦争が始まるとどうなるのか?なぜ戦争をしてはいけないのか?を端的に書いた本。一頁一頁読むごとに考えさせられた。

最後のページの絵の中に自分も参加し「や・め・て」と叫びたい!そして、どうかこの叫びが世界中の人に届いてほしい。皆が声をあげ絶対に戦争はしてはいけない!と痛感する作品です。世界中の人に読んでほしい!(矢口 恵美)

『チェルノブイリ』(DVD)

ジャレット・ハリス (出演),
ステラン・スカルスガルド (出演),
ヨハン・レンク (監督) R15+



1986年、旧ソビエト連邦のチェルノブイリ原子力発電所で大規模な爆発事故が発生。放射性物質がベラルーシ、ロシア、ウクライナばかりか、スカンディナビアや西ヨーロッパまで飛散した。深夜の爆発は大混乱をもたらし、その後は何日も、何週も、何ヶ月もの間、人命が失われ続ける。

「チェルノブイリ—CHERNOBYL—」は、人間の勇気を描くと同時に、事故の原因や責任追及をやりすごそうとする政府の極めて非人道的な慣行と、災害の危険性を軽視したことから多くの命が犠牲になったことを明らかにする実話をもとにしたドラマシリーズ。

広島、長崎での原爆投下により大量破壊と殺戮が行われた後も、その膨大なエネルギーから「夢のエネルギー」として世界中に広まった原子力発電。本作は、その膨大なエネルギーがついに人間に牙をむいたチェルノブイリ原発事故を、実際に廃炉になった同型の原発を使うなどして丁寧に描くことで原子力の暴走、放射能の恐怖、私たちの間に「本当に原子力は夢のエネルギーを与えてくれるのか?それとも触れてはいけない禁忌なのか?」という疑問がきつと強烈に残る。

日本でも2011年に福島第一原子力発電所のメルトダウンが発生して今なお避難を余儀なくされている人たちがいる。にもかかわらず原子力に頼ろうとする今の日本。そこに住む私たちだからこそ、おすすめしたい一冊。(ライスチョウ・ノア・ピンアン)

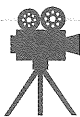
LIFE IS BEAUTIFULL ライフ イズ ビューティフル

ロベルト・ペニーニ (出演, 監督, 脚本),
ニコレッタ・プラスキ (出演)



カンヌ映画祭で審査員グランプリに輝いた、ロベルト・ペニーニ監督・脚本・主演の感動作。

ナチのユダヤ人強制収容所に収監された、ある一家の物語。父親が、母親へは永遠の愛を、子供には本当の戦争だと思わず「ごっこ遊び」のように収容所内での生活をあの手この手を使ってユーモアいっぱい楽しく過ごせるよう奮闘する。理不尽な当時の社会情勢、捕虜となってもなお、自分や家族愛を見失うことなく懸命に命を全うする父親の姿に感動します。(瀬川 栄士)



平和映画上映会と講演会

8月11日に、愛隣館にて「標的の島〜風かたか〜」の映画上映と、辺野古新基地建設阻止行動「不屈」船長の金井創さんの講演会を行った。

映画は2017年に上映されたもので、沖縄県民の8割が反対する辺野古新基地建設のためにサンゴ礁の海を埋め立てていく様子、全国から1000人を超える機動隊を投入して高江で強行されるオスプレイのヘリパッド建設、宮古島・石垣島における島民の意向を一顧だにせずにミサイル基地建設と自衛隊配備の計画が押し進められていく現状など、観るに耐えられない惨状に心が痛んだ。この現実立ち向かうためには「安全保障」「抑止力」というまやかしの言葉に騙されることなく、一人一人が「平和をつくりだす」働きを自分の身の回りから始めていくことが必要だと改めて考えさせられた一日であった。(平田)

祈る 平和の灯を 被ばくアオギリとともに



私は、小学校の修学旅行は広島だった。事前に「はだしのゲン」等を読んで学習し、実際に原爆ドームや平和記念資料館を訪れて原爆や戦争の恐ろしさを肌で感じ、その思いを展示や劇を通して保護者や他学年の生徒に伝えた。そして、今でも覚えている、友達のお母さんから「こんな怖い思いをさせて、教育上よくない」と言われ、こども心に違和感を感じたことを。

去る8月6日、向島中央公園内のアオギリの前で平和集会が行われた。このアオギリは、広島に投下された原子爆弾によって被ばくし、過去の状況下でも再び芽を出した木(被ばくアオギリ2世)であり、平和を願う象徴である。2018年、故矢吹文敏さん(元日本自立生活センター所長)が向島地域でも平和について考える機会を作りたいという思いから、NPO 向島駅前まちづくり協議会や愛隣館に呼びかけ、広島市からアオギリの苗木2本を譲り受けて、この年の5月の「にっこりフェスティバル」でこどもたちと植樹した。以降、毎年、8月6日の朝8時にアオギリの前で30人程が集い、黙とうし、「アオギリにたくして」「ヒロシマの有る国で」等を合唱し、参加者が一言ずつ平和への思いを語っている。参加者には原爆で親族を亡くされた方、被爆2世の方、顔なじみのない地域の方等も参加し、

多世代で平和への願いを誓い合う機会となっている。

ただ、幾度となく何者かによってアオギリがへし折られ、無残な姿になっている。その都度、怒りと悲しみが湧き落胆した。毎回、まちづくり協議会の山崎さんが再植樹してくれて、昨年は「アオギリの成長に平和への願いを込めて」の石碑を立て、今年は当番で見張りもした。黒多さん(向島伝道所牧師)からは「相手が何を思っているのか話を聞きたいね」と伺った。思いの違う人との対話の大切さ、怒りの感情だけではよくないことを痛感した。

また、広島市教育委員会は、今年の学校教材に「はだしのゲン」を削除した。とてつもなく憤りを感じたが、新教材の「いわたくんちのおばあちゃん」も被爆体験し、家族を亡くした方の実話であり、わかりやすく原爆や戦争の恐ろしさを伝えていた。私はゲンを通して戦争と原爆の悲惨さを知ったが、いろんな題材があってもよいのだと思うようになった。こどもたちに、おとなたちに平和や反戦への思いが芽生えることこそが根幹であり、そのためにも自分の言葉や行動で伝えていかなければいけないと思った。冒頭に感じた私自身のこどもの頃の違和感はまさに、だ!

なお、このアオギリ平和集会は、文敏氏の遺志を継いだパートナーの矢吹昭子氏が「アオギリと共に歩む会」としてバトンをつないでいる。

(支援センター「あいりん」 佐藤雅裕)



▲ 向島中央公園のアオギリ

運転手募集



内容 愛隣デイサービスセンター
重症心身障がい者通所「シサム」での送迎
資格 運転免許 時給 1,100円
休日 木曜・日曜・年末年始・GW
時間 8:30-18:30の間 1日3~4時間程度 週2日より時間・曜日相談に応じます
待遇 交通費実費支給(上限20,000円)、自転車・バイク通勤可

新愛隣館建設後の募金のお願い

~インクルーシブ社会の実現を!~

2021年4月より、新愛隣館に戻ってまいりました。建築費用は、自己資金と借入金のみで賅っております。つきましては、皆さまからのお支えを引き続きお願いしたいと思います。これまでも、多くのお支えをいただいておりますが、重ね重ねのお願いで恐縮ですが、何卒よろしく願いいたします。

<寄付金振込先> 寄付控除が受けられます
郵便振替: 01020-5-39321
口座名義: 社会福祉法人イエス団愛隣館研修センター
*募金目標額: 5百万円

編集後記

▼みなさまからのご意見ご感想お待ちしております(さ)
▼この原稿を書いている時に、パレスチナのニュースが飛び込んできた。ガザ地区を実効支配するハマスがイスラエルを攻撃し、その報復としてイスラエルもガザに対して激しい空爆を行っているという。イスラエル軍はガザ地区の住民に退避勧告を行い、地上侵攻の準備を始めているという。この戦闘ですですに双方の犠牲者は数千人にのぼっている。地上侵攻が行われれば、破滅的な人道危機に陥ると言われている。何故このような状況になっているのか。国際社会を含め私たち自身が、ガザ地区で非人道的な扱いを受けてきたパレスチナの歴史と現状に無関心であったことが大きな要因ではないかと思う。平和共存の道を探り続けていかなければ。(ひ)